

児童指導要録の記入について（評価から評定へ）

中小岩小学校

指導要録は1年間の学習指導の過程や成果などを要約して記録する物である。「児童指導要録の様式および取扱い」（東京都教育委員会平成22年）及び、評価ごとに作成されている評価規準をもとに効果的な評価をする

評価の記入の仕方および評価から評定は以下の基準を基にする。

◎観点別学習状況について（低・中・高）

※数値は、目安となります。最終的には、担任で確認をお願いします。

① 観点算出をする。

A 8以上（十分満足できると判断されるもの。90%以上をA）

B 5以上（おおむね満足できると判断されるもの。65%～89%）

C 1以上（努力を要すると判断されるもの。上記未満）

※8、5、1と数字を入力し、反映させて下さい。

児童生徒 > 成績入力 > 必修教科(教科)

変換 観点算出 評定算出

観点評価を算出するために観点評価を点数化します。
観点評価の点数を入力してください。

観点評価	点数
A	3
B	2
C	1

観点評価を算出するために観点評価の成績を利用する学期を選択してください。

☒ 1学期 ☒ 2学期 ☒ 3学期

要録 3年 2組 国語の観点評価カテゴリーポイントを入力してください。

観点評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	満点(9)		満点(9)		満点(9)	
A	8	以上	8	以上	8	以上
B	5	以上	5	以上	5	以上
C	1	以上	1	以上	1	以上
/	0	以上	0	以上	0	以上

次へ キャンセル

② 評定算出をする。(中・高)

A 24以上(十分満足できると判断されるもの。90%以上をA)

B 16以上(おおむね満足できると判断されるもの。65%~89%)

C 1以上(努力を要すると判断されるもの。上記未満)

※24、16、1と数字を入力し、反映させて下さい。

※低学年は、観点別のみ、中高学年は、観点別と評定を行ってください。

◎評価の方法と手段

- ① 学習活動の特性、評価の場面や評価基準・規準、児童の発達段階に応じて学年間で工夫し、共通で行う。
- ② ワークテスト、質問紙、ワークシート、学習カード、観察、作品、ノート、レポート、ポートフォリオなどを使用した、各観点単元(題材)の評価規準に照らし合わせた評価
- ③ 指導者評価、自己評価、相互評価

◎記述を要するものについて

○各学年記述が必要なもの

低学年：道徳、読書科

中学年：道徳、読書科、外国語活動、総合的な学習の時間

高学年：道徳、読書科、総合的な学習の時間

○特別の教科 道徳

道徳に関する所見、特筆すべき単元・領域から選んで記入。学びの深まりや、自己の考えの変容などを記入する。

○外国語活動の記録（3、4年生）

外国語活動の所見、特筆すべき単元・領域から選んで記入。単元・領域をまたいで記入しても良い。

○読書科

読書科の所見 3観点「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」から1つ以上記入する。発達段階に応じて求められる能力が違うので、江戸川区から出ている読書科指導指針解説を参照すること。

総合的な学習の時間の記述例

学習活動	観点	評価
単元名2つ 例)・パソコンに親しもう ・地域安全マップ作り	・学習意欲 ・問題解決 ・自己の生き方 ※全学年上記の3つを入力すること。	観点のうち、児童の学習状況を記入する。 例)「地域安全マップ作り」では、これまでの経験や資料を基に危険な場所や安全な場所の特徴を学習し、防犯への意識を高めることができました。

○特別活動の記録

内容ごとに十分満足されると判断される場合○を記入する。

○行動の記録

各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、その他学校生活全体にわたって認められる児童の行動について、学力向上部から提案された評価規準を参考に、項目ごとに十分満足される場合には○を記入する。

○総合所見および指導上参考となる諸事情

学習、生活、行動所見以外に以下のものを記入する。＜・を使って箇条書きにする。＞

・表彰・日本語指導

・通級（難聴・言語障害通級指導学級）巡回（特別支援教室）

（例：難聴・言語障害通級指導学級に通級開始。通級中。通級修了。）

★児童の優れている点や長所、進捗の状況などを挙げることが基本となる。

★学級・学年などの集団の中での相対的な位置づけに関する情報も必要に応じて記入する。